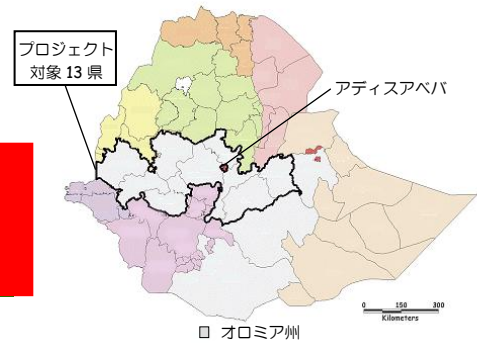




Ho! ManaBUしんぶん

2012.1.11 No.38

子どもの笑顔に会うために！



やっぱり Ho! ManaBU 研修はすごい！

～ OEB 主体計画トレーナー研修がついに開始！～

オロミア州教育局（OEB）による Ho! ManaBU 研修の全州普及計画、「OEB 主体計画」については、これまで、しんぶんでも度々お伝えしてきました（しんぶん 28、34、35、36、37 号参照）。そして、遂に！Ho! ManaBU 郡・特別市トレーナー養成研修（以下、トレーナー養成研修）が 12 月最終週から 1 月第 1 週にかけて開催されました。

今回のトレーナー養成研修は、OEB の教師教育課が主催する全 4 日間の現職教員能力強化研修の一環として、オロミア州のすべての県、特別市、郡の教育事務所の行政官、クラスターリソースセンター(CRC)担当官、小学校校長約 800 名を対象に、州内の主要 4 都市（アセラ、シャシャマネ、ワリソ、アンボ）の各会場で行なわれました。Ho! ManaBU プロジェクトチームでも手分けして、各会場での後方支援とモニタリングにあたりました。おなじみの会話形式で研修の様子を報告します（Bashadu:廣瀬、Hawi:五十嵐）。

H: 待ちに待ったトレーナー養成研修が遂に実現しましたね。シャシャマネ会場はどんな様子でしたか。

B: まず、州トレーナーの気合いの入りに圧倒されました。研修日当日、朝、私達が会場に着くと、すでに赤い Ho! ManaBU ジャケットを着た州トレーナーが、会場設営や研修教材の準備をしていて、ビックリ！州トレーナーの一人であるモハマッドさんにいっては、「Ho! ManaBU とは？」という説明を大きな紙に書いて持って来ていて、壁に張っていましたがね。

H: それは、すごい。さすが、ファシリテーションレベル 1 のモハマッドさん！（しんぶん 31 号参照）私はアセラ会場の視察に行きましたが、こちらの州トレーナーも朝 7 時 30 分には会場入りして、300 席以上の椅子を皆で設営している姿に、私は早くもウルウルしていました。

B: 今回の研修は、まずは、研修受講者に Ho! ManaBU 研修の参加者として、その楽しさを味わってもらってから、その後、Ho! ManaBU の概要などについて、州トレーナーがパワーポイントを使って詳しく

説明するという流れでした。でも、研修の実演を担当した州トレーナーは、とにかく Ho! ManaBU のことを伝えたいという思いが強く、ものすごい熱弁をふるうんですね。参加者も、その説明を熱心にメモするので、トレーナーはますます張り切って、実演前の説明がなかなか終わらなかったのです。ちょっとハラハラしたのですが、「これは、『OEB 主体計画』だし、州トレーナーのやり方を尊重しよう」と思って、しばらく我慢して見ていたら、別の州トレーナーが「説明は後にして、まずはデモンストレーションをしようよ」と声をかけて、しばらくして研修の実演が始まりました。午後の説明のセッションでは、停電になり、パワーポイントがまったく使えませんでした。州トレーナーは臨機応変にハンドアウトで対応し、さすがだなと感心しました。



どの会場でも州トレーナーの進行ぶりは見事でした。（左から）研修準備に余念のないトレーナーペア、Ho! ManaBU の説明を壁に張るモハマッドさん。気合いの入った説明に相方の州トレーナーもちょっと心配気味？

H: 今回の大きなチャレンジのひとつに、大人数でのわずか 1 日の研修をいかに楽しくかつ効率よく進行させるかがありました。プロジェクトでは最大でも 70 人程度の研修だったけれど、今回は 4 会場とも 200 人近くの参加者で、どの会場も大ホールひとつで、2 グループに分けてやったのですよね。

B: シャシャマネは、市民ホールが会場でした。ここは、2 階にもちょっとした空間があるんですね。最初は、1 階で 2 グループが隣同士でやっていたのですが、すぐに片方のグループから「隣のグループの声がうるさくて集中できないから 2 階でやりたい」という提案が出されて、さっそく参加者が分担して教材や椅子を 2 階に運びだしました。時間のロスが心配でしたが、研修はすぐに再開しましたね。自主的に場所を移動しようと言い出すということは、参加者が

それだけ研修に集中したいと思っている証拠だと思ひ、嬉しくなりました。

H: アセラは高校の講堂が会場で、端と端に分かれてやっていましたね。確かに声が反響して、うるさい感じだったけど、ひとつのグループで歓声が上がったり、大きな笑い声が聞こえたりすると、もうひとつのグループのトレーナーが焦るみたいで、懸命に笑いを取ろうとしていたのが実に健気でね。

B: いやー、泣かせてくれますねえ。

H: ワリソ会場は、床に椅子が固定されていて、うまく2グループ分のスペースが取れなかったの、ひとつのグループは屋外でやったんですよね。そういえば、昨年、Ho! ManaBU のファシリテーター研修でも会場が小さくて、青空研修をやりましたよね。



研修運営にはいろいろな工夫がみられました。シャシャマネ会場では1階と2階に分かれて(左)、ワリソ会場では屋外で(右)。

B: 「中途退学」研修の実演が始まると、参加者は興味深々。立ち上がって食い入るようにゲームの展開を追っては一喜一憂して、和やかな雰囲気で行われていきました。

H: 中途退学の啓発研修は、本当に盛り上がりますよね。「そこまでウケるか???'」と思ってしまうぐらい、皆、心の底から楽しんでいるのがわかりますよね。

B: 一方の「女子教育」研修は、実は、どうなるか少し心配でした。シャシャマネ会場では、参加者180人中、2名しか女性の参加者がいなかったの、でも、いざ始まってみると、女子教育に関するクイズを通しての議論がとても白熱しました。特にバシ県、グジ県、ボレナ県など、女兒の就学率が低い地域からの参加者の発言が活発でした(注:2010年度オロミア州全体の小学校の女兒純就学率は81.6%。前述3県は、すべて50%台で、17県中ワースト3)。

H: 女性の研修参加者は相変わらず少なかったですね。全体で20名もいなかったと思います。いかに女性の管理職が少ないかということですね。

B: そうそう、参加者の真面目さも印象深かったです。日当や旅費などは前日にすべて支払われていたので、4日目のHo! ManaBUの研修に、皆、来るかどうかちょっと心配でしたが、8時30分開始予定の研修で、9時頃までには皆そろっていました。

H: そう、それは嬉しい誤算という感じでしたよね。

何だかんだ言っても、研修の実施管理については、OEBは経験豊富ですし、参加者も基本的な研修への参加姿勢はできているなあと思いました。

B: プロジェクト側からほぼ何も指示を出すことなく、OEBがまとめ役になって、州トレーナーが見事に進行役を務めてやり遂げたトレーナー養成研修に、今後のOEB主体計画のブレイクを確信しました。

H: 私は、この研修をモニタリングして、強く感じたことがいくつかあります。まず、第一はHo! ManaBU研修はすごい!と改めて思ったこと。この研修を作ったガラナ(菊池洋専門家)にあらためて感謝!ガラナは、よく「いい教材は、作った人の手元からどんどん離れていく」と言っていたけれど、今回、研修を見ていて、本当にそれを体感しました。研修が自分で勝手に動き出していく感じでした。「ああ、この研修は完全にプロジェクトから離れたなあ」という感慨がありましたね。

B: そうですね。ちょっとぐらいルールを間違っても、大人数でも、Ho! ManaBUの研修は十分楽しめるし、目標も達成できると思いました。

H: 次に感じたのは、任せれば、彼らはやるんだな、ということ。「今頃、そんなことに気がついたのか」と言われそうですけど、どうも私は心配性というかA型人間の性というか、「こうあらねば!」という気持ちが強くて(苦笑)。研修中も、「えーっ、何でそんなやり方するのー?」と思ってしまう場面がいくつかあったけれど、彼らには彼らの仕事の流儀があって、実際、それで何とかうまく収まるのですよね。



提示するカードが間違っている気もしますが...でも、クイズを通じて女子教育について話し合うという目的は十分に達成!

B: 同感です。もちろん、それによってプロジェクトがやってきたようには、効率よく進まないこともあるけれど、そこは私たちの我慢のしどころですよ。

H: まったく。それでも、プロジェクトとして、やっぱり支援すべき部分やタイミングというのはあって、その見極め方は難しいけれど、それがまた開発プロジェクトの醍醐味(だいごみ)かなという感じもしますよね。

B: さて、これからの展開ですが...。OEB的には、州の予算で行う今回のトレーナー養成研修が完了した時点で、自分たちの役目が一応終わってヤレヤレという感じだと思いますが、本番はこれからですよ。

H: そうなんですね。養成研修を修了した郡・特別市

トレーナーが、今度は、自分の任地で CRC 担当官や校長を対象としたファシリテーター研修に入り、そのあと、いよいよ学校レベルでの研修が行われるわけですから。

- B: 今回の研修で、プロジェクト非対象地域からの参加者が「なぜもっと早くこの研修をして欲しかったんだ!」とプロジェクトスタッフに不満をぶつける場面もありました。参加者が真剣に女子教育や中途退学について議論している様子や、紙芝居を見る彼らの真剣な表情を見て、Ho! ManaBU 研修が本当に学校レベルで広がってほしいと強く思いました。
- H: OEB が今後の展開をしっかりモニタリング管理していけるよう、プロジェクトでうまく支援していきたいですね。最後に、読者の皆さん、今回の研修の写真は、あまりきれいでなくてすみません!

カウンターパート研修を終えて ～ ダバ局長とガブレ課長の帰国報告～

しんぶん 35 号でもお伝えしたように、OEB のダバ・ダバレ局長とガブレ・ミハエル・アボンサ計画課課長が 11 月中旬から約 3 週間にわたる日本でのカウンターパート研修に参加し、先月 12 月 10 日に研修全課程を修了し、無事エチオピアに帰ってきました。帰国後、すぐに JICA エチオピア事務所への帰国報告会が行われ、同事務所の太田孝治所長、上野暁美企画調査員と共に、プロジェクトメンバーも両氏の研修成果を聞く機会を得ました。

報告会では、まず、ガブレ課長から、研修概要が報告されました。日本の教育史から、教育行政、学校評価、教員評価、教員研修、授業研究にいたるまで幅広いテーマについて、大学での講義や、県教育委員会や小学校の視察、関係者との意見交換などを通じて、理論・実務両面の知見を深められたとの感想が述べられました。中でも、授業研究を含む実践的な教員研修、あらゆる関係者を巻き込んだ学校の外部評価、自己評価と外部評価の 2 段階からなる教員評価は、特に興味深い取り組みだったとのことでした。

授業研究、学校評価、教員評価は、ダバ局長も大変関心を持った教育活動だったようです。研修で学んだことを踏まえて両氏が作成した行動計画も、これら 3 つのテーマに焦点を絞られています。今年 1 月から試験的にサンプル校で開始、2012 年 9 月以降に州内全県で段階的に普及させていくようデザインされています。

また、2015 年以降の中長期計画として、中途退学の要因の徹底的な分析と対応や、各小学校での保健教育や給食の導入、幼稚園の設置などが計画されています。

ダバ局長は、行動計画について OEB 職員の意見も取り入れたいとのことで、近日中に職員を対象とした帰国報告会を開催したいと意気込みを見せていました。

両氏からの報告を受け、大田所長からは、この行動計画の実践にあたり、特に授業研究については、Ho! ManaBU プロジェクトや 2011 年 3 月からエチオピアで始まった理数科教育改善プロジェクトとの協働、保健教育については、青年海外協力隊の体育隊員の活動との連携の可能性が提案されました。

この日の報告会には、やはり本邦研修の経験があるマルガ副局長（教師教育課長兼任）も同席し、特に日本の教員研修についていろいろな質問が上がりました。ダバ局長もガブレ課長も、こちらがびっくりするほど詳しく答えていて、いかに両者が研修にまじめに取り組んでいたかが伺えました。

ダバ局長は、この研修に参加し、教育に対する自分の考え方が大きく変わったとのこと。また、ガブレ課長は、肌の色や出身国に関係なく、丁寧に接する日本人に感銘を受けたそうです。



(左下から時計回り) ①伝統衣装を着て、山田小学校講堂で児童を前に挨拶をするダバ局長（右）とガブレ課長（中）。エチオピアへ何度も来訪されている香西教授はオロミア州ボラナ県の伝統衣装をまとして（左）。②同校の児童と記念写真。③研修初日は、ダバ局長 40 歳の誕生日! 香西ゼミの学生さんが誕生日ケーキでお祝いをしてくださいました。④授業研究を視察する両氏。

Ho! ManaBU では、これまで OEB の局長クラスを対象に、プロジェクトの活動の一環としてカウンターパート研修を実施してきました。今年度が 3 回目、そして最後となります。鳴門教育大学は研修受け入れ機関として、また、同大学の香西武教授には、研修全般の運営担当者として、これまで 3 回ともお世話になり、ご多忙の中、毎回、素晴らしい研修の開催にご尽力いただきました。また、今年度は、JICA 四国の花岡潤職員、そして、研修員 2 名のビッグ・シスターとして、きめ細かい研修監理にあたっていただきました研修監理員の黒田順子さんにも大変お世話になりました。さらに、鳴門教育大学の先生方、徳島、高知県教育委

員会、高知県香美（かみ）市教育委員会、そして、香美市立山田小学校の教職員の方々、児童の皆さんなど、大勢の方々のご協力をいただきました。この場をお借りして、お礼を申し上げます。どうもありがとうございました。

香西武先生からのご報告

鳴門教育大学の香西武教授から *Ho! ManaBU* カウンターパート研修について、楽しいご報告をいただきました。ご送付いただきました写真と共にご紹介します。

鳴門教育大学
教授 香西 武

研修員が非常に意欲的であるエチオピアの研修に今回も関わらせていただきました。研修員が 2 名という今回の研修でも、午前 9 時過ぎから午後 5 時前まで研修を行うのですから、お二人は相当疲れただろうと思います。しかし、研修後ホテルに帰ってからも、その日の研修内容を基にエチオピアでの行動計画について議論し、原案を作成しているのです。こんな姿は他の研修ではみたことがありません。その計画を実施することのできる立場にある方々への研修ですから、こちらも力が入りました。帰国後は着々と研修の成果を生かした取り組みがなされているだろうと想像していますし、それをエチオピアで確認できることを楽しみにしています。

研修以外では、日本の伝統的文化？（高知の文化かも...）であるノコミュニケーション（飲む+コミュニケーション）もしっかりと体験していただきました。さすがリーダーである方々ですから、飲み込み(?)も早いです。

ダバ局長、ガブレ課長が箸を持ち、すしや刺身を上手に食べる姿には、教育長や校長以下参加者全員が驚き、それを機にすっかり打ち解けた中でのノコミュニケーションは国境の壁をいつの間にか越えていました。

お送りした写真の他にもすばらしい写真があるのですが、エチオピアの神にその写真を見られると、まずいので国境の壁を越えることはやめておきます。

今回の研修を通して、OBE と *Ho! ManaBU* プロジェクトがさらに強固な関係にあることが確信でき、研修の機会を与えてくださったことに感謝しております。ガラトーマ（オロミア語で「ありがとう」の意味）。



ダバ局長と談笑する香西教授（上）。日本食に舌鼓を打つダバ局長（下）

Ho! ManaBU への注目度、急上昇中！

～ OEB による広報活動 ～

先日、オロミア州の 2011 年度の教育活動をまとめた年報が OEB から発行されました。約 40 ページにわたる年報は、ダバ局長のあいさつに始まり、各課の活動紹介、そして OEB の活動紹介の記事として、なんと！*Ho! ManaBU* が 3 ページにわたって紹介されているではありませんか！「プロジェクト」ではなく、「OEB の活動」という見出しで *Ho! ManaBU* が紹介されているのがとても嬉しいですね。さらに、この年報の最後のページには、クロスワードパズルが載っています。あれ？これ、どこかで見たような...。そう、*Ho! ManaBU* が発行している教育雑誌 ODA(オダ)に載せているパズルになって掲載されたものです。

実はこの紹介記事は、昨年 3 月に OEB から「OEB のニュースレターを発行する予定で、その中で *Ho! ManaBU* のことを紹介したい」と原稿依頼を受けて、プロジェクトで用意したものでした。私たちは、原稿を渡したこと自体、すっかり忘れていたのですが、そこは律儀なエチオピア人、きちんと約束を守ってくれました。この年報に続き、OEB では、OEB の活動紹介ビデオを、近々制作するそうで、第一弾として *Ho! ManaBU* がその活動のひとつに選ばれました。前述の郡・特別市トレーナー研修にも広報課の職員が出張に来ていて、参加者に *Ho! ManaBU* 研修についてインタビューを行っていました。

プロジェクトでは、ODA のほか、不定期に英字しんぶんを発行し、OEB 職員に配布したり、プロジェクトオフィスの掲示板に張ったりして、プロジェクトの広報活動に努めています。OEB でも今後ニュースレターを作り、同じような広報活動を行うとのこと。聞くとところによると、このような試みは、*Ho! ManaBU* を参考にしているとか...。

プロジェクトの活動が、カウンターパート側に徐々に浸透し、このような形で実を結んでいるのは嬉しいものです。さて、OEB の *Ho! ManaBU* 紹介ビデオは、どんな出来栄か？今から楽しみです。



2011年度 OEB 年報表紙(左)。クロスワードパズル(中)と *Ho! ManaBU* の紹介記事 (右)

発行元：JICA エチオピア住民参加型初等教育改善（*Ho! ManaBU*）プロジェクト

C/O JICA Ethiopia, P. O. Box 5384, Addis Ababa, Ethiopia <http://www.jica.go.jp/project/ethiopia/0702155/index.html>

Tel & Fax: +251-11-3718022 E-mail: hoggansa@ethionet.et *Ho! ManaBU* しんぶんやプロジェクトへのご意見・ご感想お待ちしております。